

【児童への話】

7月も2週目に入りました。7月は昔の言い方だと、文の月と書いて「ふづき または ふみづき」です。なぜ文の月と書くかというと、日本や中国でこの時期、梅雨が徐々に明けて湿気でじめじめしていた書物をお日様の下で広げて乾かすことを指す、「文被月（ふみひろげづき）」という言葉が変化したという説が有力なようです。貴重な紙でできた書物などを永く大切に保管しようとする、昔の人々の姿が目に見えるように浮かぶようですね。

さて、明日7日は七夕なので、今日は「七夕のいろいろ」について、皆さんにお話しします。

最初に「七夕の天気」です。七夕はもともと、今とは違って8月の行事でした。だから、晴れの日が多かったようです。でも、今の時期の七夕は梅雨の最中であることが多く、例年、七夕の夜が晴れる確率は30%程度だそうです。今年はまだ梅雨が明けていけませんので、明日、運よくきれいな天の川が見られるとよいですね。

次に「七夕の距離」です。七夕は、こと座ベガの織姫と、わし座アルタイルの彦星が1年に一度だけ出会う日と言われていますが、実はこのふたつの星は、光の速さでまっしぐらに進んでも14.4年かかるほど離れています。織姫と彦星が会うために、互いに光の速さで進んでも、7年と2か月以上はかかる計算なので、1年に一度会うのは物理的には不可能です。きっと、愛は光の速さを超えて届く、ということなのでしょう。

最後に「七夕のお願いごと」です。七夕では、願い事を書いた五色の短冊（赤・紫・青・白・黄）を笹にくくり付けますね。これは、織姫が機織りの上手な働き者だったので、織姫のように手芸や裁縫などが上手くなりますように、という願いをしたことから始まり、自分の習っていることやお勉強がよくできるようになることをお願いする行事となったそうです。皆さんも、お願いしたことが叶うように、一日ひとつの努力を忘れずに頑張ってくださいね。今日は「七夕のいろいろ」についてお話ししました。

【本講話について】

1学期の学校生活も、残すところ10日となりました。子どもたちと過ごす時間があっという間すぎてビックリです。今週末は暑さが増し、梅雨明け前に本格的な夏が到来しそうな雰囲気です。子どもたちに夏の暑さに負けない丈夫な体をもたせ、よい状態で2学期へとつなげたいと思います。

今日は七夕のあれこれについて講話をしました。願いごとはきっと願うだけでなく、言葉や文字にすることで力を得るのだと感じています。毎日の生活の中で、頑張ったという実感を伴った確かな力を子どもたちが自覚できるよう、目標を達成させるための取組を今後も充実させていきます。